

エグゼクティブサマリ

1. プリンター市場動向調査

1.1 2020年の市場実績

2020年のプリンター市場は、全世界トータルで9,616万台となった（前年比98%）。方式別では、ドットインパクト方式が210万台（前年比89%）、インクジェット方式が6,446万台（同101%）、電子写真方式が2,960（同91%）となった。

1.2 2023年までの見通し

2023年のプリンター市場は全世界トータルで9,369万台（CAGR -0.9%）になると予測した。方式別では、ドットインパクト方式は182万台（CAGR -4.6%）、インクジェット方式は6,210万台（同-1.2%）、電子写真方式は2,977万台（同+0.2%）と予測した。

本見通しは2020年末時点の出荷自主統計調査の結果を基礎データとして、中期的な市場の方向性を精査したものである。2021年は、新型コロナウイルス感染症（以下COVID-19とする）による経済停滞から徐々に回復する見通しであるが、今後の世界・地域経済への影響次第では、2023年の予測台数が大きく変わる可能性もあることについて付記しておく。

2. プリンター技術動向調査

今回調査した 2020 年発売の製品も含めた過去 11 年分の方式別新製品機種数の推移数を表 2.1 および図 2.1 に示した。

電子写真方式の発売機種数は、方式別では最大で 2020 年は 140 機種であった。例年と大きな変化はなく推移している。SFP, MFP は 2010 年からそれぞれ平均 37 機種, 87 機種で増減を繰り返している。POD は 15 機種を平均に増減を繰り返していたが、2018 年と 2020 年に最大機種数 20 機種であった。今後の動向に注目したい。

インクジェット方式の発売機種数は、2020 年は 60 機種であった。例年と大きな変化はなく推移している。MFP, LFP は 2010 年からそれぞれ平均 34 機種, 30 機種で増減を繰り返している。LFP は 2020 年 18 機種と少なめであったが過去 11 年間の少ない年と同レベルである。SFP は 13 機種を平均に増減を繰り返していたが、2018 年から 3 年連続で平均値以上であった。今後の動向に注目したい。

感熱・熱転写方式の発売機種数は、2020 年は 12 機種であった。例年と大きな変化はなく推移している。2013 年一時的に 1 機種まで減少したが、2014 年から 2020 年の平均は 9 機種であった。2019 年, 2020 年は 2 年連続で平均値以上であった。今後の動向に注目したい。

ドットインパクト方式の発売機種数は、2020 年は 3 機種であった。シリアルタイプが 2 機種とラインタイプ 1 機種であった。ラインタイプの発売は 2011 年以来 9 年振りである。今後の動向に注目したい。

2.2 以降に方式別の動向分析結果を示す。

表 2.1 方式別新製品機種数推移

| | 2010年 | 2011年 | 2012年 | 2013年 | 2014年 | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 | 2019年 | 2020年 |
|---------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|-----------|------------|------------|------------|
| 電子写真 (EP) | 108 | 149 | 132 | 177 | 110 | 149 | 172 | 91 | 149 | 149 | 140 |
| SFP | 43 | 45 | 32 | 35 | 31 | 39 | 48 | 42 | 20 | 40 | 29 |
| MFP | 50 | 99 | 85 | 123 | 60 | 103 | 113 | 36 | 109 | 93 | 91 |
| POD | 15 | 5 | 15 | 19 | 19 | 7 | 11 | 13 | 20 | 16 | 20 |
| インクジェット (IJ) | 71 | 66 | 78 | 63 | 97 | 73 | 78 | 72 | 103 | 89 | 60 |
| SFP | 13 | 12 | 17 | 9 | 16 | 6 | 9 | 12 | 19 | 14 | 15 |
| MFP | 29 | 33 | 39 | 34 | 47 | 28 | 26 | 41 | 34 | 35 | 27 |
| LFP | 29 | 21 | 22 | 20 | 34 | 39 | 43 | 19 | 50 | 40 | 18 |
| 感熱・熱転写 | 15 | 11 | 6 | 1 | 8 | 3 | 14 | 8 | 7 | 9 | 12 |
| ドットインパクト (DI) | 2 | 6 | 7 | 4 | 5 | 9 | 1 | 3 | 6 | 5 | 3 |
| シリアル | 2 | 4 | 7 | 4 | 5 | 9 | 1 | 3 | 6 | 5 | 2 |
| ライン | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |

機種数

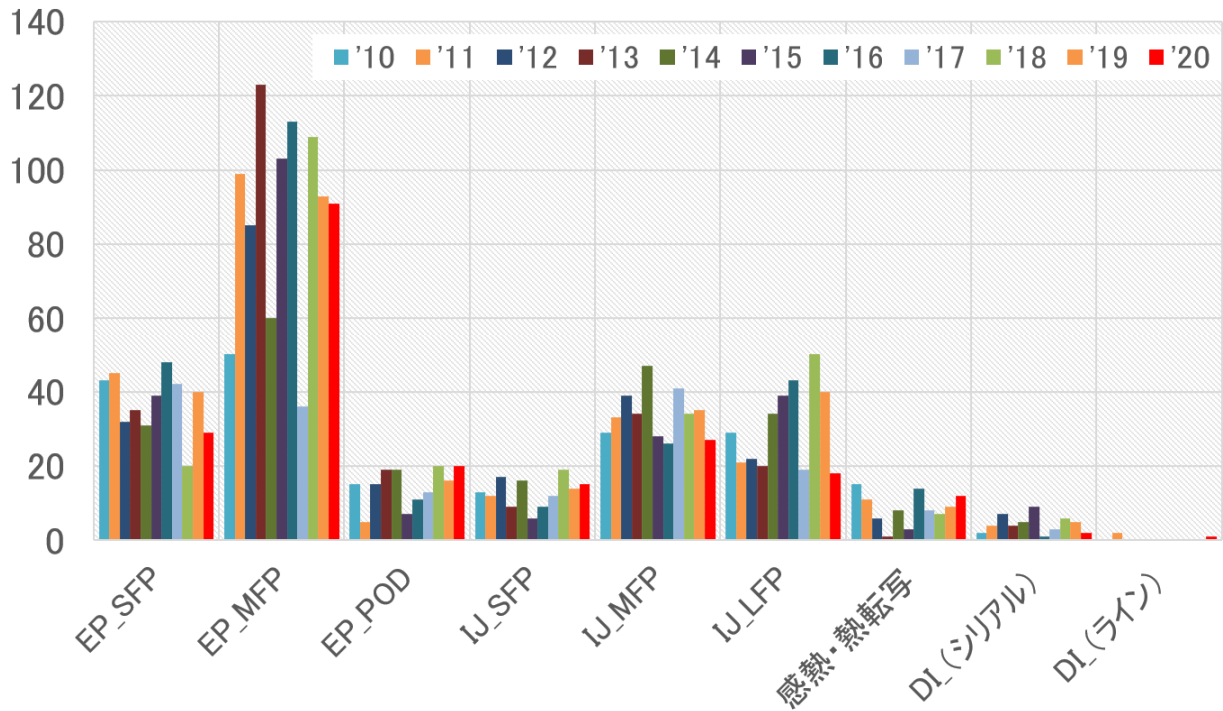


図 2.1 方式別新製品機種数推移

プリンターの呼称について（解説）

本年度の報告書では、プリンターの呼称について下記のように用語の統一を図った。

プリンターの利用語表記については、「JEITA IS-15-情端-7 プリンターカタログ用語集」(<http://home.jeita.or.jp/cgi-bin/page/detail.cgi?n=873&ca=1>)を参照されたい。

・電子写真プリンター

定義：感光体面に静電潜像を形成させ、トナー等により現像後、普通紙等に転写、定着させる方式を用いたプリンター

(注釈1)「ページプリンター」を電子写真プリンターとして使用する場合はあったが、「ページプリンター」は「シリアルプリンター」や「ラインプリンター」と並んで印刷動作を示す用語に位置づけられているため、印刷方式としては「電子写真プリンター」の用語を使用することとした。

・インクジェットプリンター

定義：インク粒子や小滴を用紙に噴射させて文字や画像等を形成する方式を用いたプリンター

・ドットインパクトプリンター

定義：文字や画像を複数の点（ドット）で表現し、それぞれの点に対応する印刷ヘッド内の金属製のワイヤーを、インクリボンの上から媒体に対して打撃することで印字する方式を用いたプリンター

・感熱・熱転写プリンター

定義：記録用紙の感熱媒体に熱を与えることにより化学反応を与えて可視像を形成する方式、または記録用紙に接触させたインクリボンあるいはインクシートに熱を与えることによりインクを用紙に転写する方式を用いたプリンター

(注釈2)「プリンター」は、出力機器という意味と、複合機あるいは「MFP (Multi Function Printer)」に対する単機能機の意味で使用される場合がある。本書では、特に断りがない場合は「出力機器」という意味で使用する。特に、単機能機に限定する場合は、「単機能機」あるいは「SFP (Single Function Printer)」と呼称する。